

vol.49- 4 (通算 553号)

2019年7月号

The logo for 'Yadokari' is written in a large, stylized, red font. The characters are 'や', 'ど', 'か', 'り'. The 'や' and 'り' have a rounded, friendly appearance, while 'ど' and 'か' are more angular.2019年7月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

2019年度定時総会開催

つながりを力に未来を拓く

設立50周年に向けて

今年度の定時総会を6月8日(土)にさいたま市民会館おおみやで開催した。午後には同会場にてきょうされんが製作した精神科医の呉秀三のドキュメンタリー映画「夜明け前」の上映会を行った(本誌2P参照)。総会では2018年度事業報告案審議及び承認と2018年度決算案審議及び承認の議事後、やどかりの里50周年に向けた今年度の事業計画の共有と意見交換の時間を設けた。

開会にあたり、増田一世常務理事は欠席した土橋敏孝代表理事からの「本総会は設立50周年を目前とした大切な機会」との伝言を受け、歴史を振り返りやどかりの里の原点を大切にこれからのやどかりの里の姿を描いていく節目の年となると挨拶した。

やどかりの里は2019年3月末日現在でメンバー361人、職員86人を超える、設立当時とは比べにならないほどの大きな組織となった。事業活動全体の収入は5億8,000万円を超える。あおぞらハウスも無事開所することができた。やどかりの里が活動を開始した1970～1980年代は公的補助金が全くなく、いつつぶれてしまってもおかしくない状態が続いていた。それでもやどかりの里が精神に障害のある人の居場所を創りだす活動を続けてこられたのは、メンバーと家族の強い願いと行動があったからである。その当時の先達たちの頑張りなしに、今のやどかりの里はない。会員の1人1人が活動の担い手であり、まさにコ・プロダクション(共同創造)の実

践そのものであったといえる。原点ともいえるその力を武器に、やどかりの里は50年のその先を描いていくことになる。

社会情勢は厳しい。2018年度の報酬改定では本体報酬に成果主義が導入され、特に就労支援の事業所の影響は大きく、対応を迫られた。中央省庁等による雇用水増し問題や旧優生保護法による被害、生活保護の切り下げなど、問題は山積している。一方、国の対応は障害者権利条約の締約国として、はなはだ不十分である。障害があつたり、生きづらさを抱えた人が更に生きづらい社会になっている。

そうした社会背景の中で、50年続くやどかりの里の活動のこれからを具体的に考え取り組む年として、活動方針を「未来を拓く つくる・つなぐプロジェクト始動」とした。2018年に開催した人づくりセミナーでは、SDGs(持続可能な開発目標)が目指す「誰もが取り残されない地域社会」の実現に向けて、精神保健福祉活動に軸足を置きつつ、生きづらさを抱えた人や地域住民など多様な人とつながりながら、どんな地域にしていきたいのかを、いっしょに考え行動する姿を描いた。まさにそれを実践に移す年となる。

総会の閉会挨拶で柳義子理事より、内向きの発想ではなく、視野を広げ、地球規模の指針を意識し、活動していくことこそ、やどかりの里の使命であると話された。50歳を迎えるやどかりの里は、つながりを力に、これからも力強く歩んでいく。